

## 7 流谷八幡神社のいちよう府

樹 高：30m 幹周り：5.5m  
 樹 齢：400年 指定年：平成元年3月1日  
 所在地：河内長野市天見2211  
 交 通：南海高野線「天見」駅下車、南西へ徒歩900m

流谷川左岸の斜面で全身に陽の光を浴びて育っています。  
 地上に露出した根は力強い生命の源を感じさせます。



## 8 自然居士のいちよう府

樹 高：16m 幹周り：3.8m  
 樹 齢：450年 指定年：昭和56年6月1日  
 所在地：阪南市自然田1680  
 交 通：南海本線「尾崎」駅から、南海ウイングバス  
 「尾崎駅前循環」行き「中村」下車、南へ徒歩100m

このイチョウ1本だけが立っているその場所は、この孤高の樹を敬うための聖域のようです。落ち葉舞い散る秋、根元は綺麗に清掃され、ご神木として地元の人たちに大切にされていることを思わせます。

## 9 金乗寺のいちよう府

樹 高：20m 幹周り：3.3m  
 樹 齢：500年 指定年：昭和59年5月1日  
 所在地：岬町深日733  
 交 通：南海多奈川線「深日町」下車、北へ徒歩600m

「金乗寺ってどこですか？」と訊ねても地元の人にはピンとこないようですが、「大きなイチョウの樹どこですか。」と訊ねると「御坊さんの樹のことか。」と教えてくれます。誰もが幾度となく訪ねた親しみのある巨樹なのでしょう。



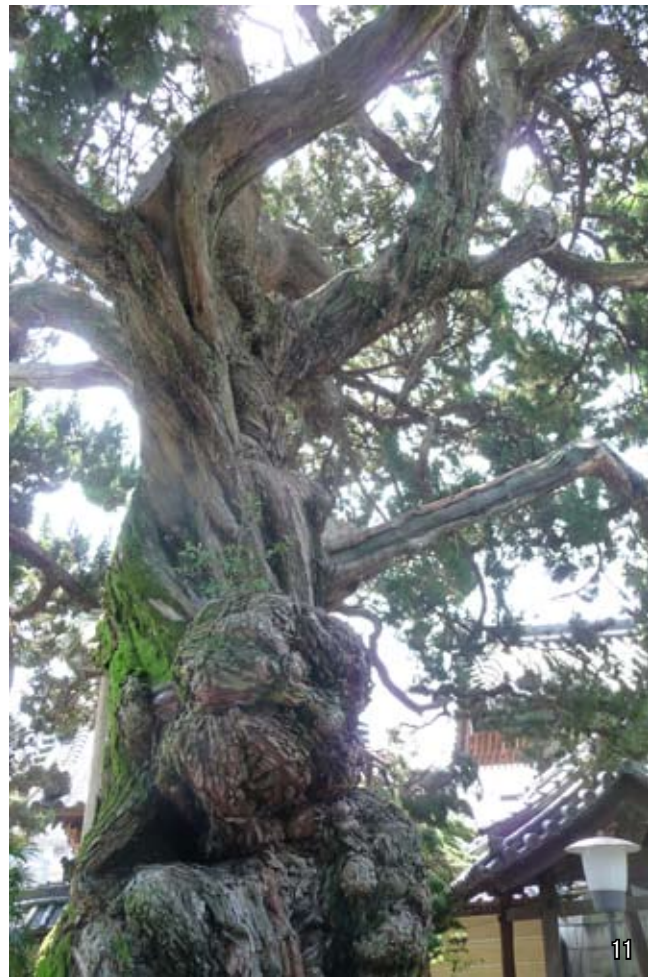


10

## 10 来迎寺のいぶき府

樹 高：14m 幹周り：4.7m  
 樹 齢：500年 指定年：昭和56年6月1日  
 所在地：松原市丹南3丁目1-22  
 交 通：近鉄南大阪線「河内松原」駅から、近鉄バス  
 「余部」行き「丹南」下車、西へ徒歩400m

見事な天然の造形美です。イブキの幹はねじれながら大きくなっていきます。その姿の力強さと美しさは、出会った瞬間、時間がとまったかのような気がします。



11

## 11 西教寺のいぶき府

樹 高：10m 幹周り：3m  
 樹 齢：5～600年 指定年：平成5年11月24日  
 所在地：和泉市幸2-250  
 交 通：JR阪和線「信太山」駅下車、北東へ徒歩900m

ねじれた樹皮、大きな瘤、緩やかな曲線を描きながら伸びていく幹。どこをとっても桁外れに面白い。そんな巨樹ですが、台風で枯れ枝が落下して、門の屋根瓦が割れたことがあります。人に当たったら大変ですからと枯れている枝を剪定し、大切に育てられています。

## イブキ

ビャクシン（イブキ）は本州、四国、九州と中国中部、朝鮮半島に分布するヒノキ科ビャクシン属の針葉樹で、高木になるカイヅカイブキやミヤマビャクシン、地を這うように生育するハイビャクシンなどの品種があります。普通葉は尖っておらず、枝に密生しますが、先祖帰りと考えられる尖った葉が出ることもあります。樹皮は赤褐色で、縦に薄く裂ける性質があり、海岸の岩場などに生育したものは大木になると幹がねじれたようになります。まっすぐ育ったものでもかなり凹凸のある幹になり、風情があることから庭木として植えられることも多い木です。カイヅカイブキは貝塚市の

木に指定されています。

ミヤマビャクシンは別名シソバともいい、幹のかなりの部分が枯死して白骨がむき出しになったような姿になっても一部の辺材が生きていれば生育するため、昔から厳しい自然をイメージさせる盆栽に珍重されてきました。

材は赤みがかって木目も美しいため家具や床柱に利用されます。

また、ビャクシンは梨に発生する赤星病菌の宿主となるため、梨の産地の自治体では条例でビャクシンの植栽を規制しているところもあります。

## 12 永福寺のびやくしんえいふくじ

樹 高：                    幹周り：  
 樹 齢：800年          指定年：昭和45年2月20日  
 所在地：忠岡町忠岡中1丁目  
 交 通：南海本線「忠岡」駅下車、北西へ徒歩400m

推定樹齢800年といわれる5本のビャクシンが指定されています。さすがこれだけの巨樹が集まって境内に趣を添えている姿は圧巻です。どの株も元気に枝を伸ばし、その先に小さく饅頭のような形で葉がまとまっています。



12



12

## 13 山直大島邸のびやくしんやまだいおおしまてい

樹 高：12m                幹周り：3.5m  
 樹 齢：800年          指定年：昭和45年2月20日  
 所在地：岸和田市包近町  
 交 通：南海本線「岸和田」駅から、南海ウイングバス「牛滝山・白原車庫」行き「包近」下車、西へ徒歩250m

このビャクシンは大きな邸宅の庭から聳え立っています。やや離れたところから眺める樹形の美しさは圧巻です。所有者はこの樹を誇りに思い、毎年手入れをしながら大切に守ってこられました。府内のビャクシンの中では稀にみる巨樹で、180年前余り前に暴風雨で倒れたにもかかわらず、再び起こされて、今も元気に育っています。



13



13



14

いすのきの葉：虫こぶ

## 14 北庄司邸のいすのききたしやうじてい府

樹 高：15m 幹周り：1.7m  
 樹 齢：200年 指定年：昭和48年3月30日  
 所在地：泉佐野市日根野  
 交 通：JR 阪和線「日根野」駅から、南海ウイングバス  
 「犬鳴山」行き「新道出」下車、南東へ徒歩200m

広い庭の西側にすくっと立っています。大切に育てられてきたことを思わせます。のびのびと枝を伸ばし、沢山の葉をつけ陽の光を浴びた葉は輝いて見えます。

## イスノキ

イスノキはマンサク科イスノキ属の常緑高木で、ユスノキ、ヒョンノキとも呼ばれる照葉樹林の重要な構成種です。関東以西の本州、四国、九州、南西諸島、濟州島、台湾、中国南部に分布します。

樹皮は灰褐色で、葉は厚く卵形で光沢があります。春には葉の根元に小さな花を密集して咲かせますが、花卉はなく赤く見えるのは雄しべの葯です。実は細かな毛におおわれたラグビーボールのような形で、熟すと二つに裂けて艶のある黒い種子を落とします。

葉にはアブラムシの仲間の寄生によって虫えいとい

う虫こぶがたくさん発生します。これをひよんの実と呼びますが、大きなものは成虫が出た後の穴を笛のように吹いて遊ぶことができます。ひよんの実にはタンニンが豊富に含まれているため、草木染めの黒い染料に利用されたり、皮なめしに使われたりもしました。

材はきわめて硬く丈夫なことから、家具や木刀に加工されます。特に、豪快さで鳴らす薩摩示現流の木刀がイスノキでつくられることは剣道界では有名な話です。建築材としては長期間風雨にさらしてから磨きあげたものを風蝕材といい、非常に高価な床柱になります。